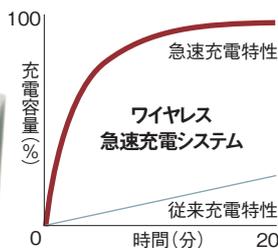


未来社会に貢献するために

新技術・新事業の種をまき、次世代の芽を育てています。

ムラタの任務——それは、“Innovator in Electronics(エレクトロニクスの改革者)”として、新しい技術の種をまき、未来社会のために大きく育てていくこと。こうして社会に貢献することが、ムラタ自身の成長にもつながると考えています。

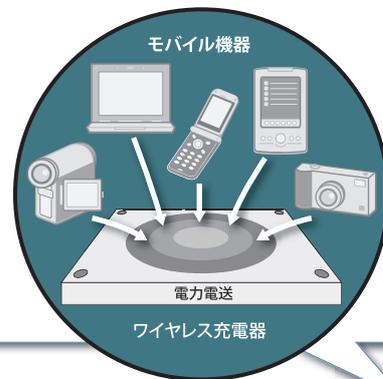


ワイヤレス急速充電システムで

モバイル機器を充電器の上に置くだけで短時間充電が可能に。ムラタ独自の積層セラミックス技術を発展させたハイブリッド車用リチウムイオン二次電池の「急速充電」技術を応用したものです。



CEATEC JAPAN 2007 展示会で紹介



Murata Way、それはイノベーター(変革者)の道

ムラタは2007年2月、自らが進むべき方向を示した長期ビジョン“Murata Way 2015”で、活躍するフィールドを拡大し、将来にわたって成長を続けていくというビジョンを打ち出しました。その達成には、既存の技術・事業を強化するだけでなく、一人ひとりがエレクトロニクスのイノベーターとして新技術・新事業を創造していこうとする強い思いが必要です。それが“Murata Way”です。

ムラタは、「新製品の売上高比率40%」という目標を掲げ2007年には、技術・事業開発本部を創設し、環境・バイオ・エネルギーなど、これからの社会にとって重要な分野に新しい技術・事業の種をまき、育てていく体制を整えました。

そして今、環境分野では「CO₂吸収材の事業化検討」「水質検知センサ、気象モニタリングセンサなどの可能性検討」などに、バイオ分野では「バイオセンサの開発」「生体認証センサなどの事業検討」などに、エネルギー分野では「リチウムイオン二次電池の事業化準備」「蓄電、発電デバイスの可能性検討」などに取り組んでいます。



未来社会に貢献することが、ムラタの任務です

接近させるだけで短時間にモバイル機器を充電できる社会へ

中でも「ワイヤレス急速充電システム」には、モバイル機器メーカーなどからひととき大きな期待が寄せられています。これは、携帯電話やノートパソコンを充電器に接近させるだけで、つまりワイヤレスに、わずか10~15分間で充電をほぼ完了するもの。現状のシステムは、有線接続する特定のアダプ

タを必要とし、充電完了までに1~2時間かかりますが、これとは比べものにならないほど簡単に充電できます。

ムラタでは、従来から、急速充電型ハイパワーリチウムイオン二次電池の開発を進めています。この最先端リチウムイオン二次電池に、独自の小型・薄型モジュール化技術を融合させ、さらにセイコーエプソン株式会社が開発した、無接点(ワイヤレス)で効率良く電力を伝送する新技術

「Air Trans.」を組み合わせたのが、「ワイヤレス急速充電システム」です。(Air Trans.はセイコーエプソン株式会社の商標です)

現在「3年以内の実用化」をめざしており、このシステムが普及すれば、いつでも、どこでも充電できる社会となり、モバイル機器がいつでも便利に使える社会になるでしょう。

従業員から

ムラタのビジネスの新しい柱として

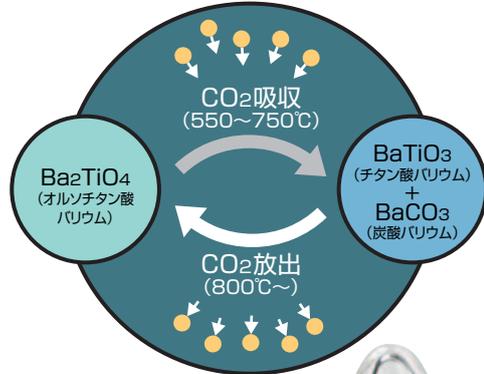


技術・事業開発本部
企画部 新規事業推進課 課長
徳寺 博

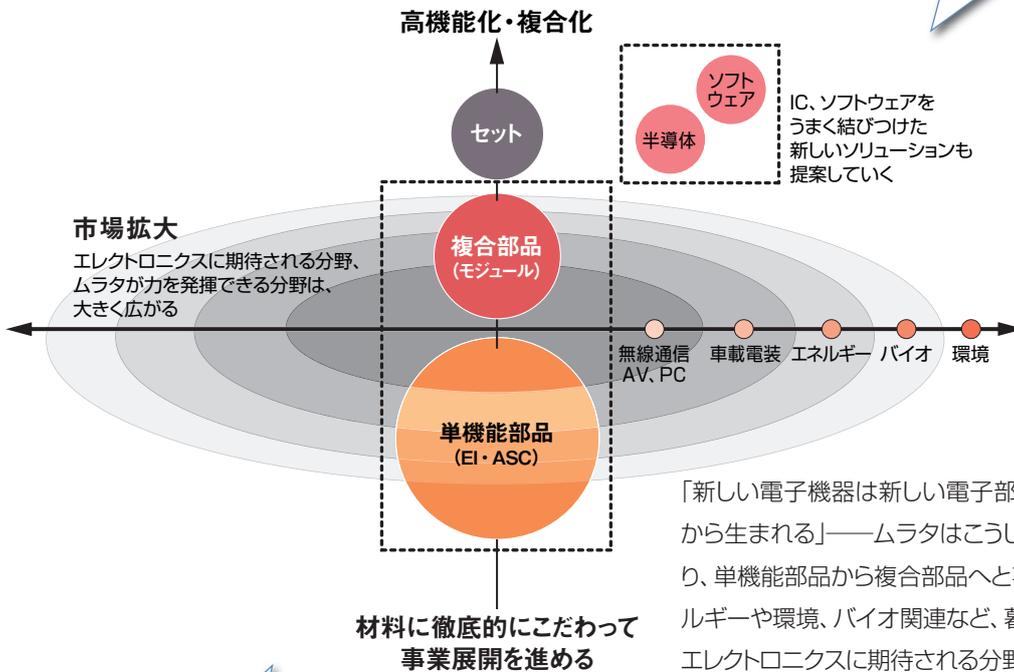
ワイレス急速充電は、携帯電話やモバイル機器をいつでも使えるようにしたり、充電時の安全性を高めたりと、非常に広がりのある技術です。
当社の事業の新しい柱となるように、引き続き意欲的に開発を進め、ぜひインキュベーション(孵化)させたいと思っています。

CO₂吸収剤で

セラミックコンデンサの原料であるチタン酸バリウム系材料を用いて合成したオルソチタン酸バリウム(Ba₂TiO₄)に、高温のCO₂を効率的に吸収、放出させる機能を発明しました。



私たちが築いてきた事業領域。
すべてはここから出発します。



「新しい電子機器は新しい電子部品から、新しい電子部品は新しい材料から生まれる」——ムラタはこうした考えのもと、材料に徹底的にこだわり、単機能部品から複合部品へと事業を展開してきました。今後は、エネルギーや環境、バイオ関連など、暮らしの快適や安全、地球環境にいたるエレクトロニクスに期待される分野で、ムラタは力を発揮していきます。

リチウムイオン電池で

開発を進めているハイパワーリチウムイオン二次電池は、既存のニッケル水素二次電池の約2倍のパワーがあり、急速充電・長寿命といった特長を持っています。

